

1. ディレクトフォースについて

私は三菱商事（株）を訪問しましたが、その方々から成熟した社会人になるために大切であることを教えていただきました。そのことについて考えさせられたことがあります。それは、世界の中の日本を意識することです。最近ではグローバル化が進んでいます。そういった社会で生きるうえで、世界に影響を与え、世界各国の企業と連携して活動していくことは欠かすことのできないことだと思います。そうするためには日本の文化にとらわれず、世界の多様な文化を意識し世界全体を見る視点を持たなければなりません。

このことは、自分から見た「他」を受け入れることと関係します。三菱商事のある方は、高校生のときにドイツに留学し社会人になってからも外国で活動することがあったようですが、日本と違う文化に戸惑ったことがあったとおっしゃっていました。しかし、その文化を受け入れ現地の人々と接していくことで、より幅広い考え方を身につけられたそうです。このようなことから、「他」、つまり自分と違うことを受け入れることは、「他」の観点に植えつけられた人々と接していくうえで大切であると分かります。そして、周りの人々、つまり自分と違う人間を理解することは世界の中の日本、つまり日本という国が数多くの国々の中に属していることを認識して活動していくことにつながっていくのだと思います。

しかし、「他」を受け入れるためには自分と違うところを知ることが必要であり、そのためには「自分」自体を知らなければなりません。したがって、私たち学生は日本について勉強し理解することが最重要で、次いで外国の言語や文化理解が大切であると思います。

三菱商事の方は、「グローバルの中で規模の大きい人間になれ」とおっしゃいましたが、そうなるためには「自分」、つまり日本について知り、「他」である世界を理解し、そして日本と世界の違いを認識することが大切であると思います。

今回、三菱商事（株）を訪問し、社会人として生きるために大切なことをたくさん学ぶことができました。お忙しいところ、この機会を設けてくださったことにとても感謝しています。

2. 企業大学訪問

私はゆうクリニックを訪問し、心理学や心療内科についてゆうきゆうさんから話をいただきました。心理学についてですが、心理学は傾向にすぎないとおっしゃっていました。だから、患者さんを診察するとき全てを心理学に依存するのではなく、患者さんの症状に応じて対処法を考えることが大切だそうです。

ゆうきゆうさんは、この他にも「人生に終わりはない」とおっしゃいました。高校生である私たちには大学に入学するのがゴールであると錯覚しがちですが、実際はそうではなく、大学に入学しても大学院に入るまたは就職をするという「ゴール」があり、就職をしても就職をやり遂げるという「ゴール」があり、結果的にゴールはないそうです。だから、高校生である私たちは大学受験が全てではないと考えるのが大切です。

お忙しい中時間をつくって私たちの訪問を受けてくださったことにとても感謝しています。

3. OBOGによる懇談会

二高卒の東大生や一橋大生を見た時、一瞬鳥肌が立ちました。最難関大学の壮絶な試験に見事受かっていった方々だ、そう思うと頭が上がらない気持ちになりました。二高卒の方々が私たちのいる席に座ると、凄まじい緊張感がわたしを束縛しました。私たちのグループにいらっしゃった齋藤自快さんと話しているうちに緊張感が緩んできましたが、最初に錚々たる方々を目にしたときに走った緊張感は凄まじいものでした。

冷たい脇汗が垂れ落ちる中、齋藤さんの高校時代の二高生活や東大生活についておっしゃったことを聞いていました。そのとき、齋藤さんは何事においても自分でやる覚悟を持つことについて語っていました。

私たち高校生にはまだ親に依存していることがあります。主に生活面での依存です。しかし、大学生になってしまったら生活面のあらゆることを自分でやらなければなりません。進学先が「実家」から遠くはなれたところにあるならなおさらです。したがって、高校生であるうちに1人で暮らしていく覚悟を決めておくことが必要で

す。

このことを思ったとき、「受験」という文字が引っ掛かりました。受験の合否は、私たち個人の責任です。志望校を決めるとき、それなりに覚悟を持つことが必要だと思います。現役で受かる覚悟やそのために過酷な受験勉強をする覚悟です。

また、齋藤さんは「たくさん遊んだほうがいい」とおっしゃっていました。遊びを無駄なことだとは思いませんが、無駄なことをたくさんした人は大学受験に強いというのを聞いたことがあります。無駄と思われることが実は何かしら大切なことであったり重要なことであったりするのだそうです。齋藤さんの「遊んだほうがいい」という考えはこのことと関係しているように思います。

さらに、遊びは人間の健全さや文化の創造を根底から支える営みである、ということを経験に学んだことがあります。つまり、遊ぶことによって、人間としての教養を得て学問や芸術などの文化の領域において創造的に生きることができるのです。だから、私は遊びで得たエネルギーを勉強や部活に活かしていきたいと思っています。あくまで、適度な遊びを心がけるつもりですが。

4. 東京大学見学会

東京大学オープンスクールという機会を通じて、知の世界を開拓することについて考えさせられました。知の世界は人間が創造してきたものであり、その世界を、知を求める人間が、好奇心や探究心が原動力となって広がっていきます。こうして開拓され体系化した世界が学問であり、現在では数学、生物学など多様な学問があります。しかし、いまだに未知の世界に包まれている学問があります。それは、宇宙学です。

私は、東京大学オープンスクールでおもに宇宙学についての講義を受けてきました。現代の宇宙学には、連星中性子星の合体、また超新星爆発の観測という課題があります。これらを成し遂げることで、ブラックホールや中性子星の核心に迫ること、そしてアインシュタインの相対論の検証を行うことができるそうです。連星中性子星の合体や超新星爆発は、「重力波」というものを生じさせます。この重力波について、東京大学ビッグバン宇宙国際研究センターの伊藤洋介さんは「アインシュタインの重力波をとらえる」と題した講義を開き、私たち高校生が理解することができるように分かりやすく説明してくださいました。宇宙物理学に興味があった私にとってその講義はとても魅力的であり、志望学科を理学部にする大きなきっかけとなりました。そして、伊藤さんは講義の最後に、私たち高校生が大学に入る頃には重力波天文学が始まっているということをおっしゃいました。このことを聞いたとき、私は一瞬、ある種の違和感を覚えました。「学問が・・・始まる？」そう思ったとき、私の学問に対する概念が覆されました。私にとって学問とは、私たちが生まれたときには既に体系化されているもので、その終結した学問を習得していくものという私の無意識的な考えがありました。そうではない、そう気づいたとき、わたしはとても感動しました。「知の開拓」一知を切り開くことで創造されたもの、このことに気づき、私は大学に進学して学ぶ意味を理解できたように思います。高校内容を超越した（切り開かれた）学問を学び、その知識や思考を活かし将来の様々な社会生活に役立てていくということ、それが、私たちが大学に学ぶ所以であると思います。

また、このオープンキャンパスをきっかけに理学部を目指すことにしました。理学部に入って、宇宙について様々なことを学びたいです。こうして志望学科を決めることができたのは、伊藤さんが私たち高校生にとても魅力的な講義を開いてくださったからです。その魅力が私を理学部へ進むよう促したのだと思います。伊藤さんにはとても感謝しています。